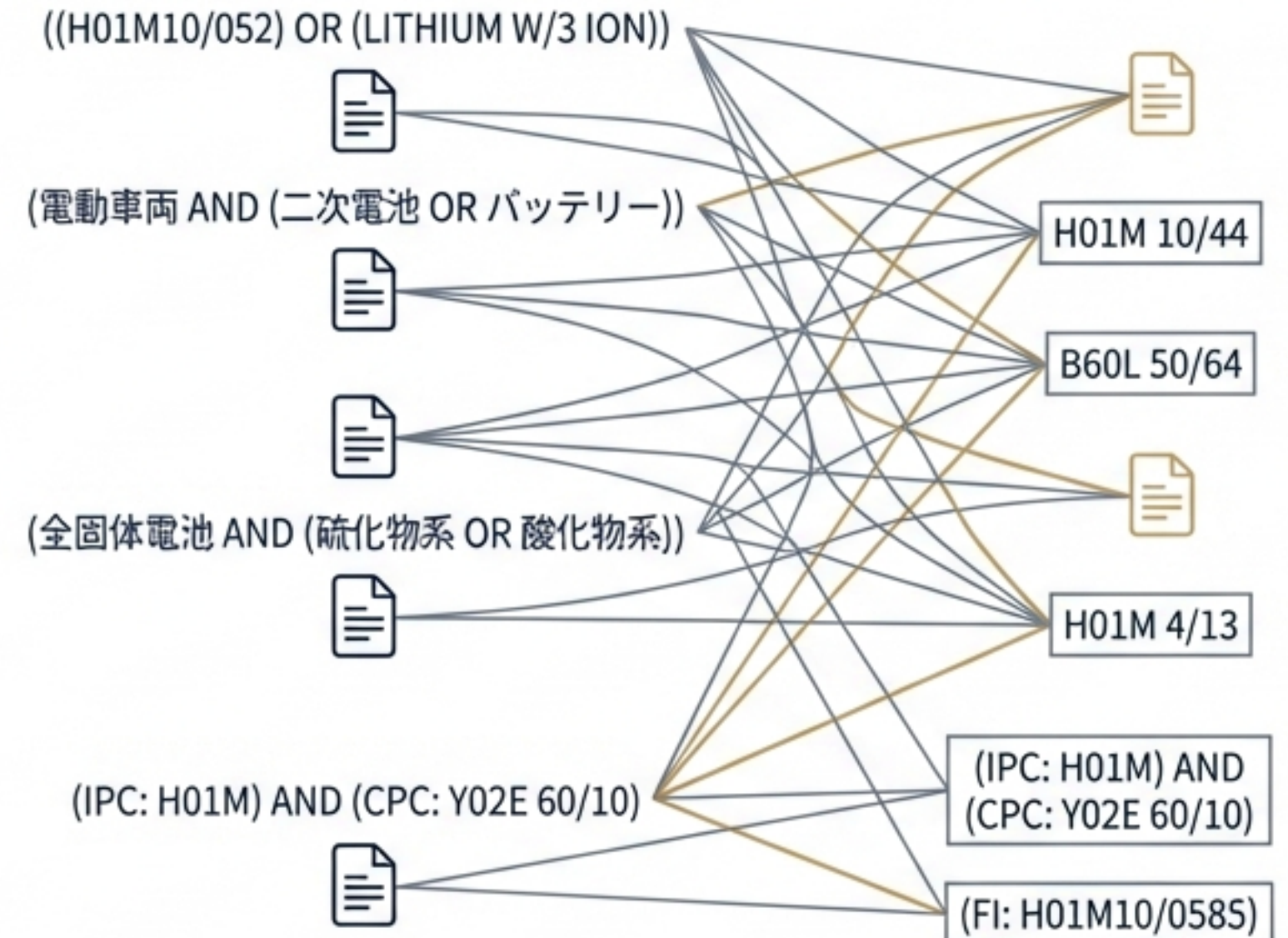


THE PROMISE / マーケティングの約束

自然文入力：『次世代の電気自動車用バッテリー技術』

🔍 Search

THE REALITY / 実務の現実



AIエージェントによる特許調査の信頼性評価：『検索式不要』の真実と実務への適用

精度、法的リスク、そして「監査可能性」を中心としたデューデリジェンス

エグゼクティブサマリー：AIは「スクリーニング」には有効だが、「FTO」の完全代替は未達

HIGH UTILITY / 高い有用性

一次スクリーニング・ランドスケープ

候補文献の広範な拾い上げと可視化に最適。速度と網羅性を重視するフェーズ。



CAUTION REQUIRED / 要注意

先行技術調査 (Prior Art)

「未知の未知」を発見する補助として有効だが、精度の担保には人間の検証が必須。



HIGH RISK / 高リスク

侵害予防調査 (FTO / Clearance)

「漏れがない (Zero Leakage)」ことの保証が不可。監査可能性 (Auditability) なき
AI結果は証拠能力を持たない。



Core Verdict: 英国知的財産庁 (UK IPO) の結論 — 特許調査は「反復的かつ戦略的プロセス」であり、完全自動化は現状不可能。

「検索式不要」の3つの実装レベル

Level 1: Semantic Search (ランキング提示)



メカニズム: 自然文や特許番号のベクトル化 (Embedding)。類似度に基づくランキング表示。

Example: Tokkyo.Ai (類似度順300件表示), Patsnap

Level 2: Agent Type (自律的反復実行)



メカニズム: AIがキーワードや分類を自動生成し、検索→検証のループを複数回実行する。

Example: Tokkyo.Ai 'Deep Search' (検索→分析→提案)

Level 3: Generative Analysis (RAG / 生成)

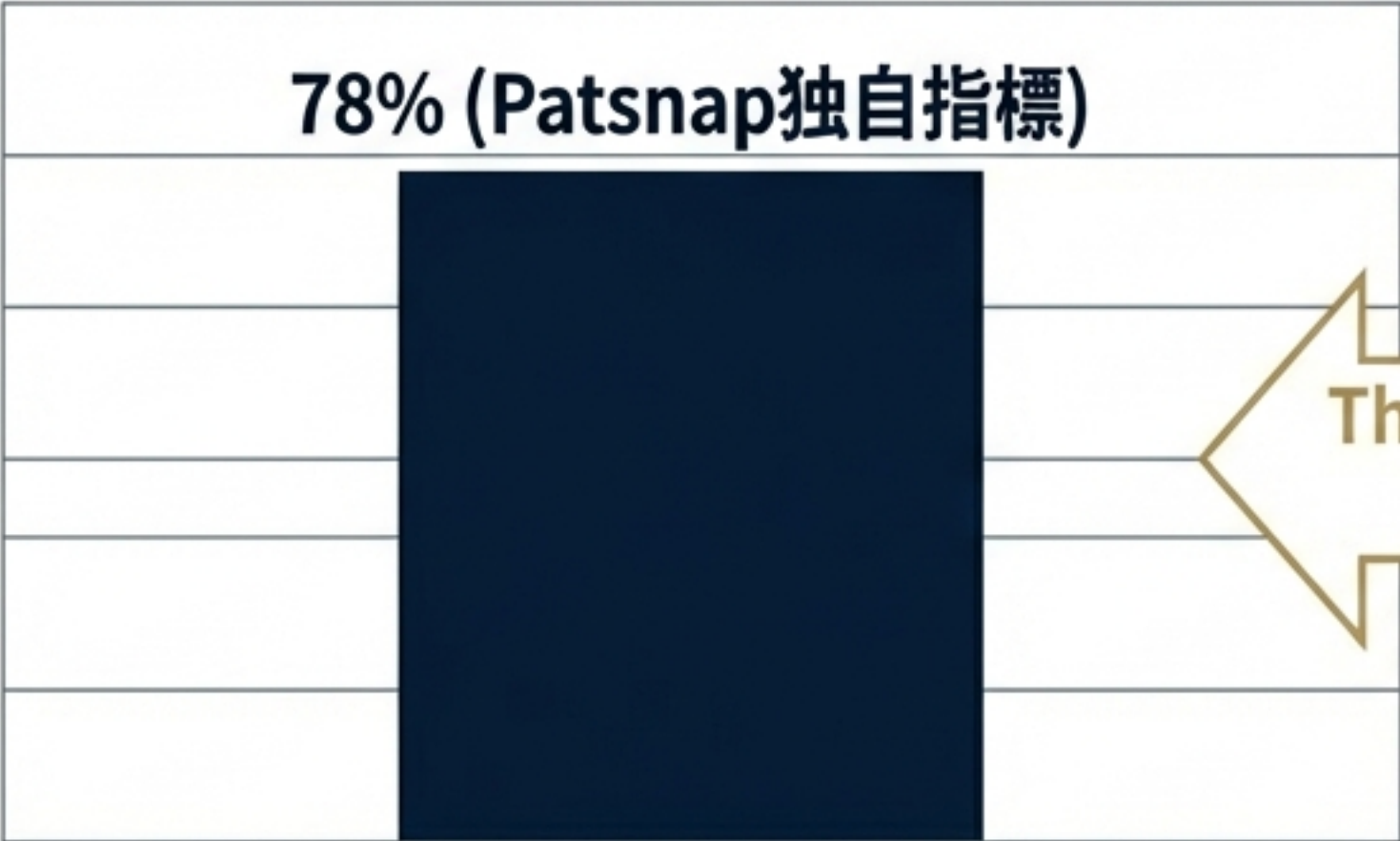


メカニズム: 検索結果を入力として、LLMが要約・比較・マッピングを行う。

Role: ドキュメント発見ではなく、レポート作成・読解支援。

再現率と解釈のギャップ：なぜ「見逃し」が起きるのか

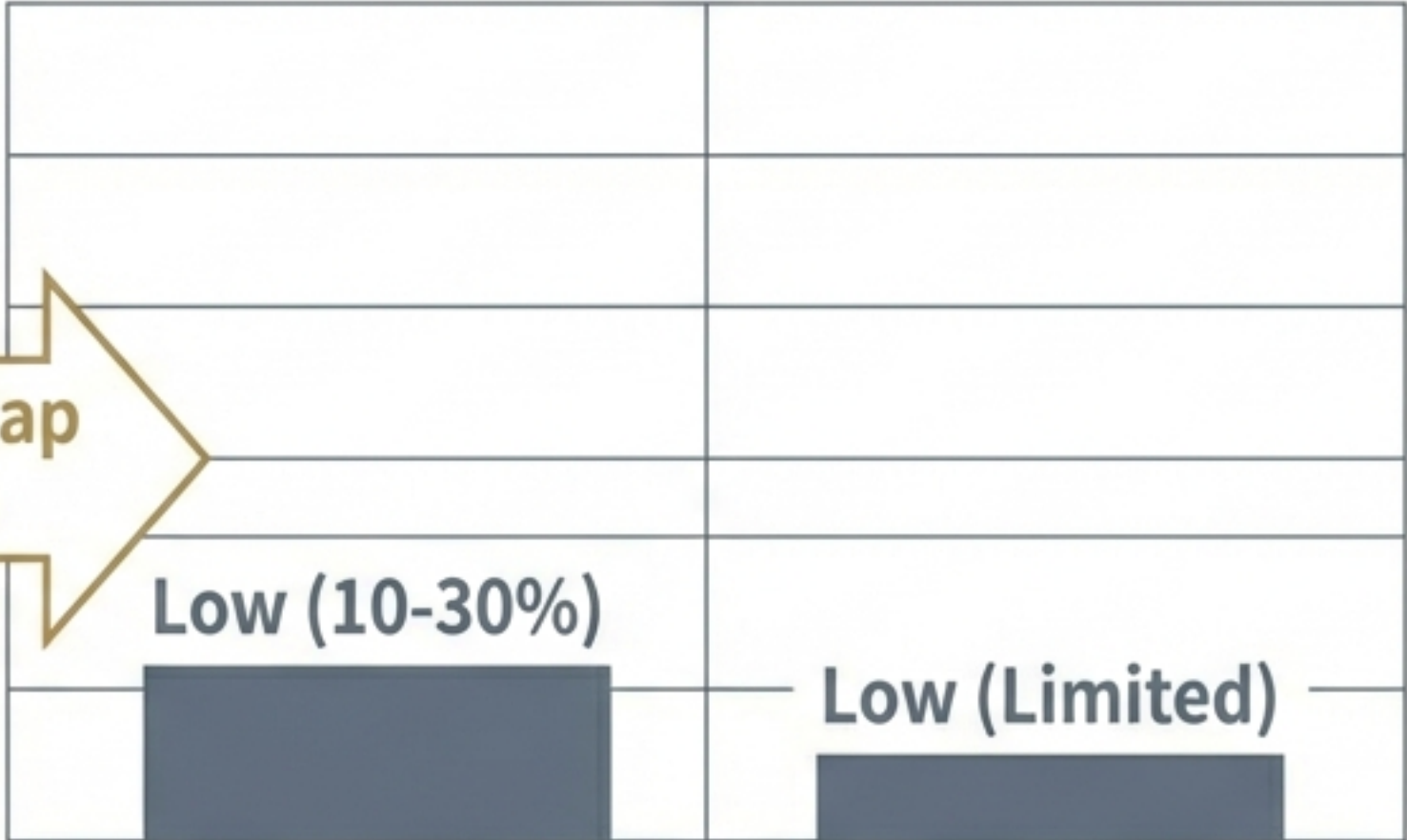
Commercial Claims (Vendor Marketing)



Top 100 Accuracy

定義が非公開。社内指標。

Academic Reality (CLEF-IP Benchmark)



P@10 (Precision)

R@10 (Recall)

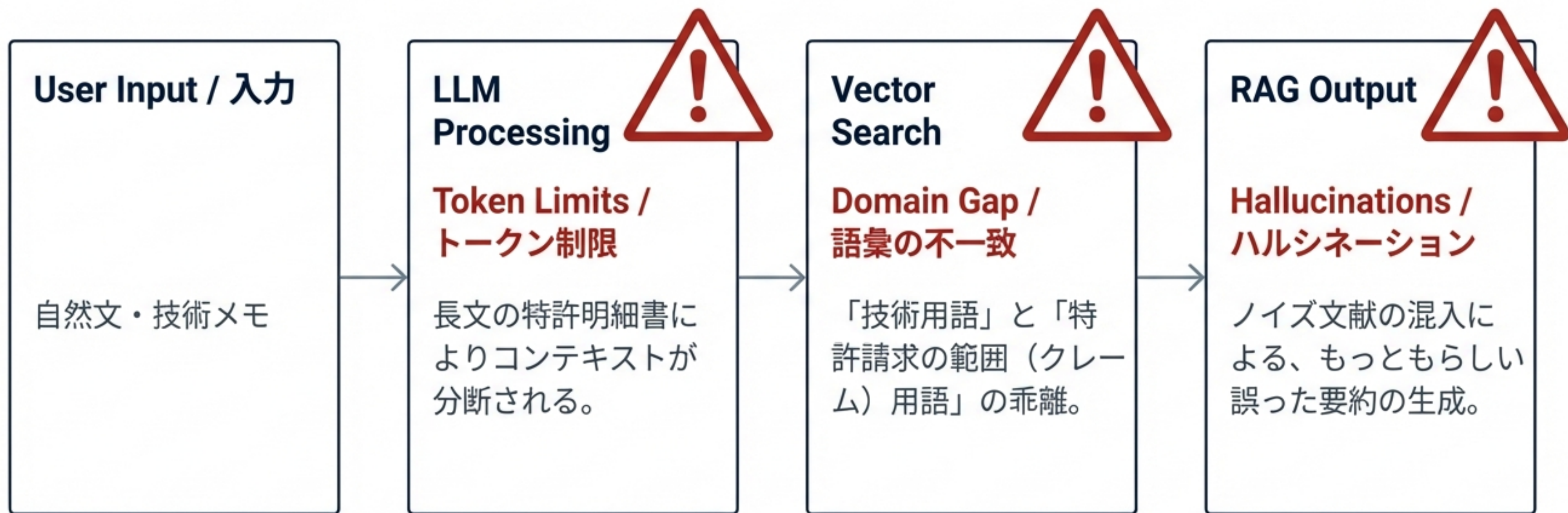
学術的ベンチマークでの現実。



Fundamental Difficulty (根本的課題):

- Concept Drift (意味の揺れ) – 同義語・分類・翻訳の複雑さ
- Legal Status (法的状態) - 権利維持、補正、拒絶理由の把握

技術的ボトルネック：AIが「特許」を誤読する構造的要因



データ品質の罫：アルゴリズム以前の「カバレッジと更新頻度」

Update Latency (更新遅延)

PCT / WIPO (Official)	Daily Update (日次更新)
Commercial Tools (Lens/Questel)	24-48 Hours / Weekly
National Registers (J-PlatPat etc.)	Variable Lag (国によりバラつきあり)

RISK: Snapshot Search (Inter Bold)

AIの検索結果はデータベース更新時点の「スナップショット」に過ぎない。
FTO調査において、最新の法的状態
(Status/Amendments)
を公式レジスターで確認しないことは過失となる。

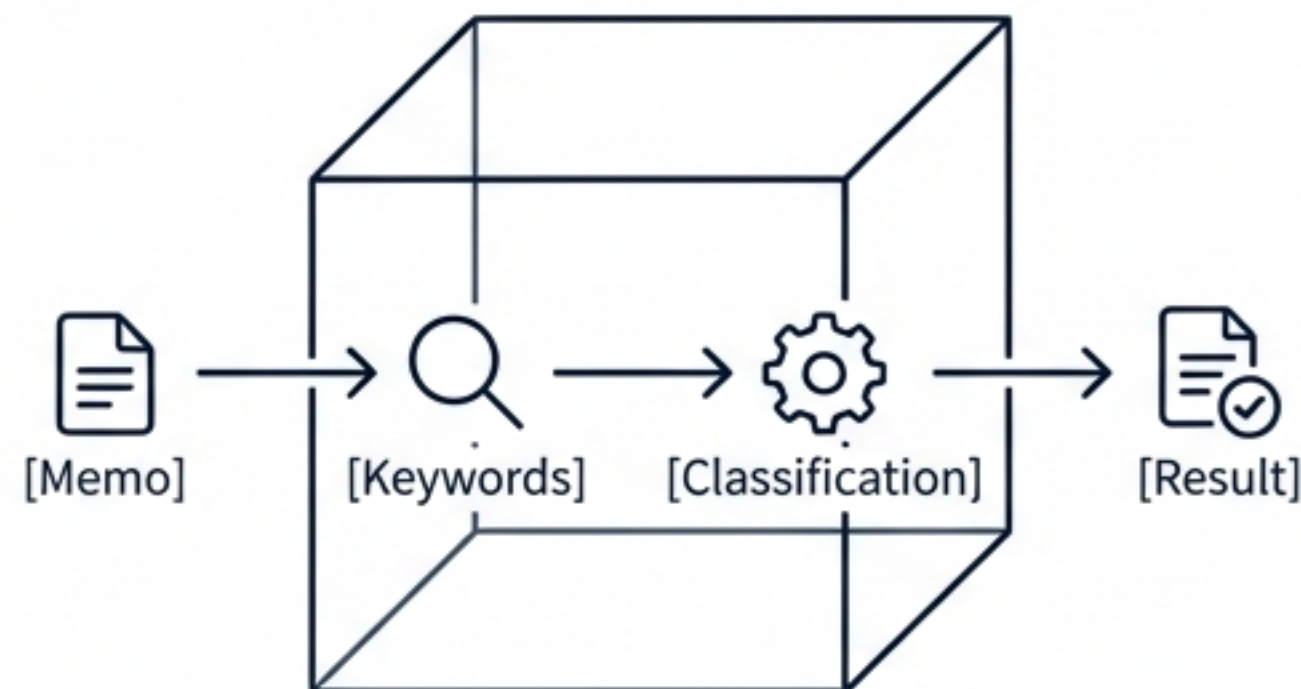
「監査可能性（Auditability）」：ブラックボックス化する検索プロセスの証拠保全



Unverifiable Result（検証不能）

結果だけが表示される。なぜその文献が選ばれたか、どのキーワードが使われたかが不明。証拠能力なし。

Auditable AI (Process Visualization)



Evidence Ready（証拠保全）

Tokkyo.Ai等のアプローチ：検索パス（Input→Logic→Output）をログとして保存。「再現性」を担保する。

Evidence is not the result, but the process.
（証拠とは結果ではなく、プロセスそのものである。）

法的・倫理的リスクと弁理士会のガイドライン



Confidentiality & Novelty / 守秘義務と新規性

未公開の発明内容をパブリックなLLMに入力することは、新規性喪失（公知化）に繋がるリスクがある。

Requirement: Check for 'No-Training' Clauses (学習利用なし条項) & Private Environment.



Hallucination & Liability / ハルシネーションと責任

生成AIは存在しない引用文献を捏造する可能性がある（Ref: Mata v. Avianca 事件）。

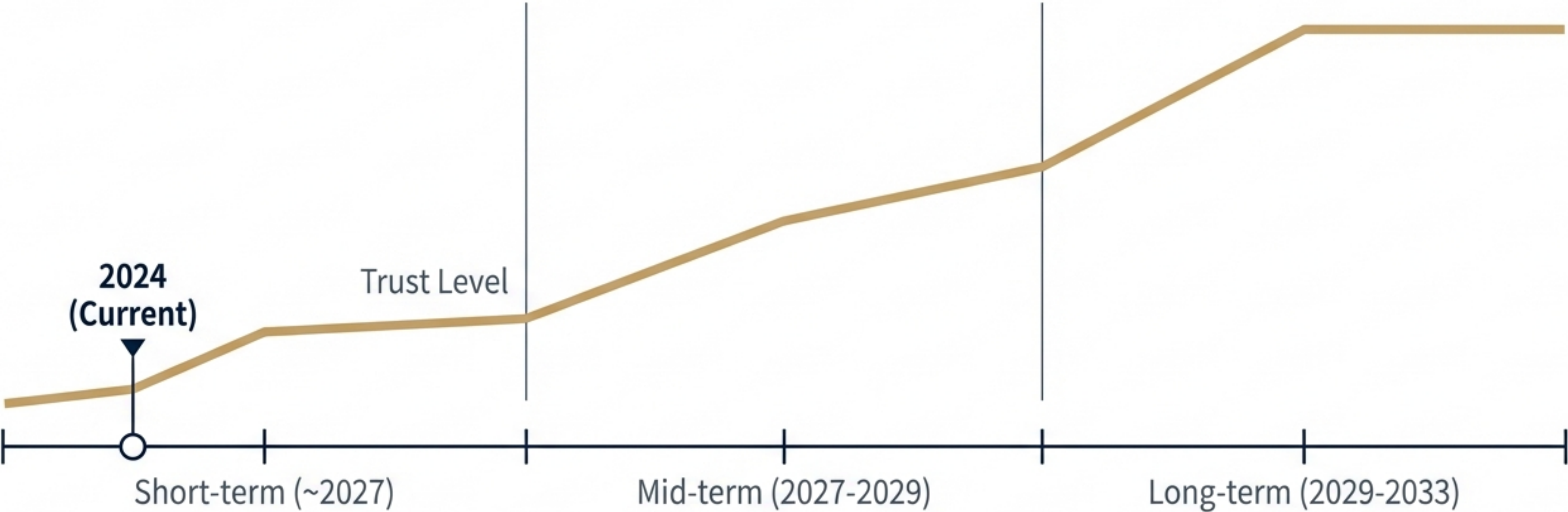
JPAA Guideline: 日本弁理士会ガイドライン：生成物の正確性は保証されず、弁理士が検証の全責任を負う。

ツール比較：機能ではなく「透明性」で選ぶ

Tool Name Noto Sans JP	Type Inter Bold	Core Strength Inter Bold	Transparency/ Auditability
Tokkyo.Ai	Agent Type (Deep Search)	Workflow Automation	High (Process Visualization / プロセス可視化) 
Patsnap	Semantic / Analytics	Global Volume & Metrics	Medium (Metric-focused e.g., Top 100) 
Google / Espacenet	Baseline / Manual	Free, Public Access, Translation	N/A (Manual Control) 

Verdict: Use Commercial AI for 'Discovery', Official DBs for 'Status Verification'.

信頼性ロードマップ：AIはいつ「実務の中核」になるか



Assistant (Medium Reliability) ⚠️

検索式生成、要約、一次スクリーニング。漏れゼロは不可能。

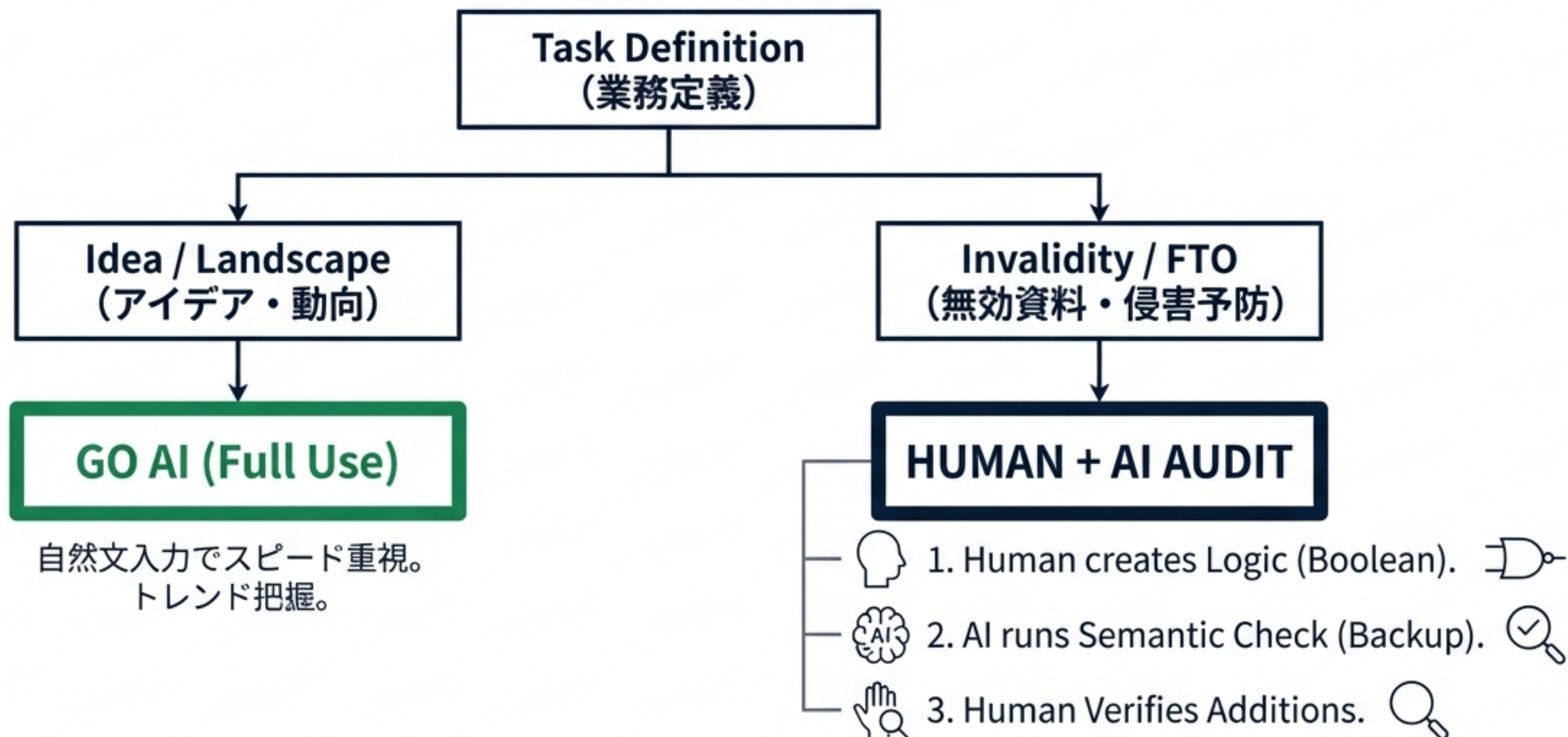
Enhanced Drafts (Med-High) ➡️

特許特化LLM、長文対応。ドラフト精度の向上。

Auditable Agents (High w/ Audit) ✅

第三者検証ログ、標準化ベンチマーク。実務ワークフローへの統合。

実践的統合ガイド：業務フェーズ別のAI活用判断



Role Evolution: From 'Searcher' to 'Verifier/Orchestrator'.

結論：「検索」から「監査」へ。専門家の役割の進化

1

Accept the Assistant

AIで検索範囲（Recall）を広げるのは良いが、AIに範囲を限定（Precision）させてはならない。

2

Demand Evidence

「魔法の結果」ではなく、「検索パス（ログ）」を提供するツールを選ぶこと。

3

Verify Data

AIデータベースはスナップショット。最終的な法的状態は必ず公式レジスターで確認する。

「AIは専門家の判断を代替するのではなく、より高度な検証能力を要求する。」

参考文献・ソース (References & Sources)

- UK Intellectual Property Office (UK IPO): "AI-assisted patent prior art searching feasibility study"
- WIPO (World Intellectual Property Organization): Patsnap / PATENTSCOPE Coverage Data
- Japan Patent Attorneys Association (JPAA): "Guidelines on AI Utilization" (日本弁理士会 AI利活用ガイドライン)
- Tokkyo.Ai: Deep Research / Deep Analysis Documentation
- CLEF-IP: Academic Benchmarks for Patent Retrieval
- Mata v. Avianca (SDNY): Case Law regarding Generative AI Hallucinations